

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 21 年 10 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

女岳（めだけ）北東斜面では、8月に確認された新しい噴気地熱域の斜面下方への拡大が確認されました。

ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

平成 21 年 10 月 27 日に噴火警戒レベルの導入に伴い、噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。秋田駒ヶ岳の活動状況及び予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・熱活動の状況（図 2～5）

21～23日にかけて現地調査を実施しました。赤外熱映像装置による地表面温度分布観測¹⁾では、8月28日に確認された女岳北東斜面の新しい噴気地熱域で、斜面下方側に地温の高い領域が認められました。地中温度²⁾の測定でも60 前後が観測されました。

なお、以前から定常的に地熱の高まりがみられている女岳山頂北部の噴気地熱地帯では、前回（2009年8月27日）と比べ、地表面温度分布¹⁾及び噴気・地中温度²⁾などに特段の変化は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) サーミスタ温度計による直接測定。サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器です。

・地震や微動の発生状況（図 6）

火山性地震は少ない状況が続いています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 7～8）

21～23日にかけて実施した GPS 繰り返し観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

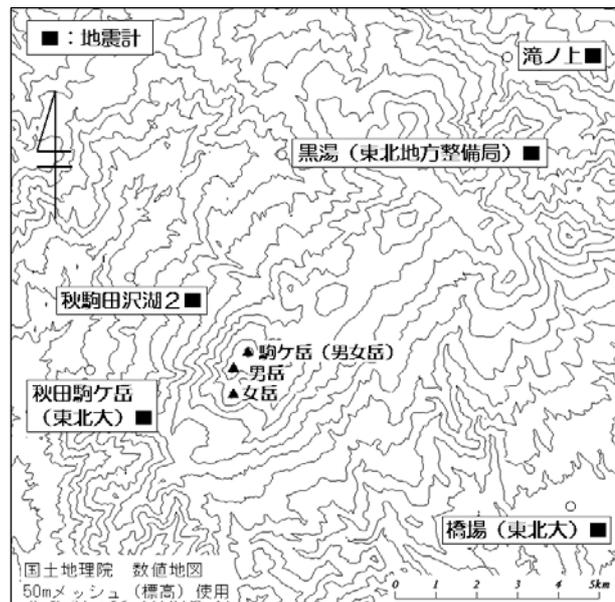


図 1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 11 月分）は平成 21 年 12 月 8 日に発表する予定です。

資料は気象庁のデータ他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

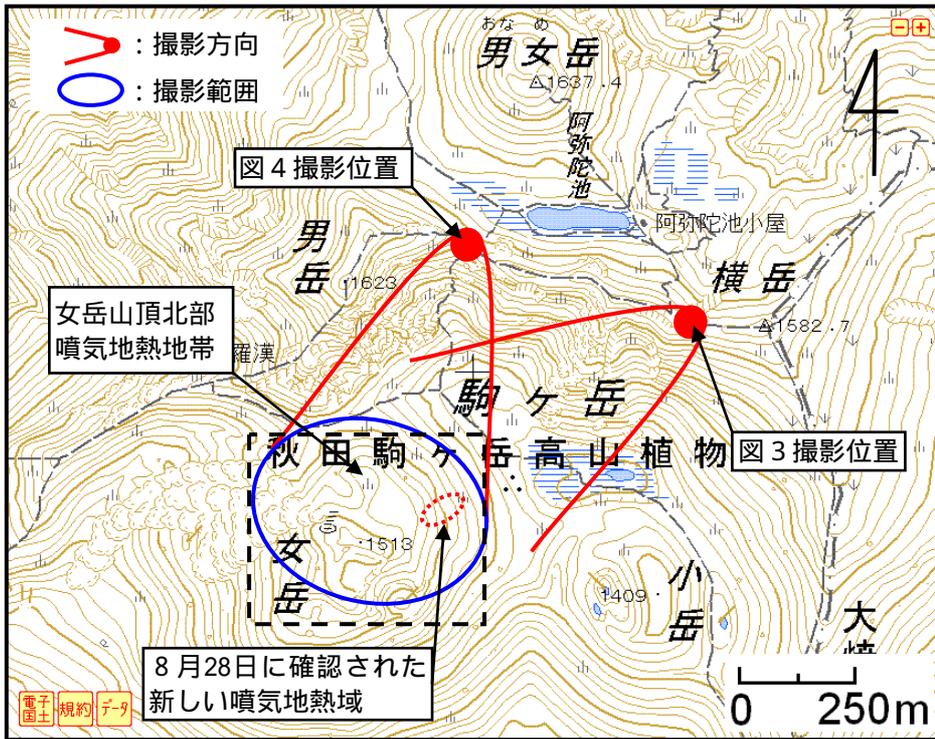


図 2 秋田駒ヶ岳 地形図と地表面温度分布¹⁾ 観測地点

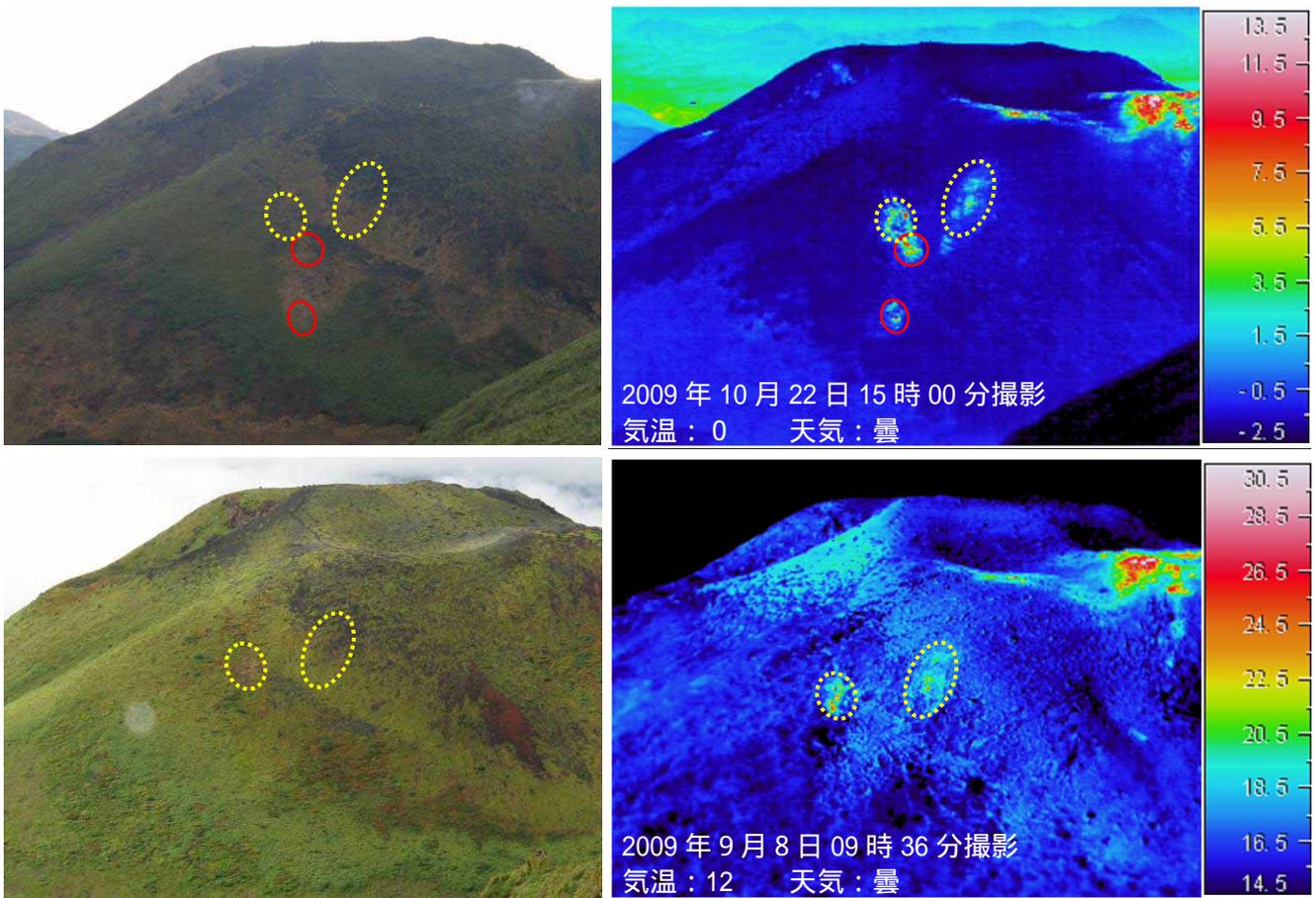


図 3 秋田駒ヶ岳 女岳北東斜面の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

（上段：2009年10月22日、下段：2009年9月8日）

- ・上段の図の実線赤囲みの領域が、今回の調査で拡大が確認された地熱域です。
- ・上下段の図の破線黄色の囲みの領域が8、9月の調査で確認された地熱域です。

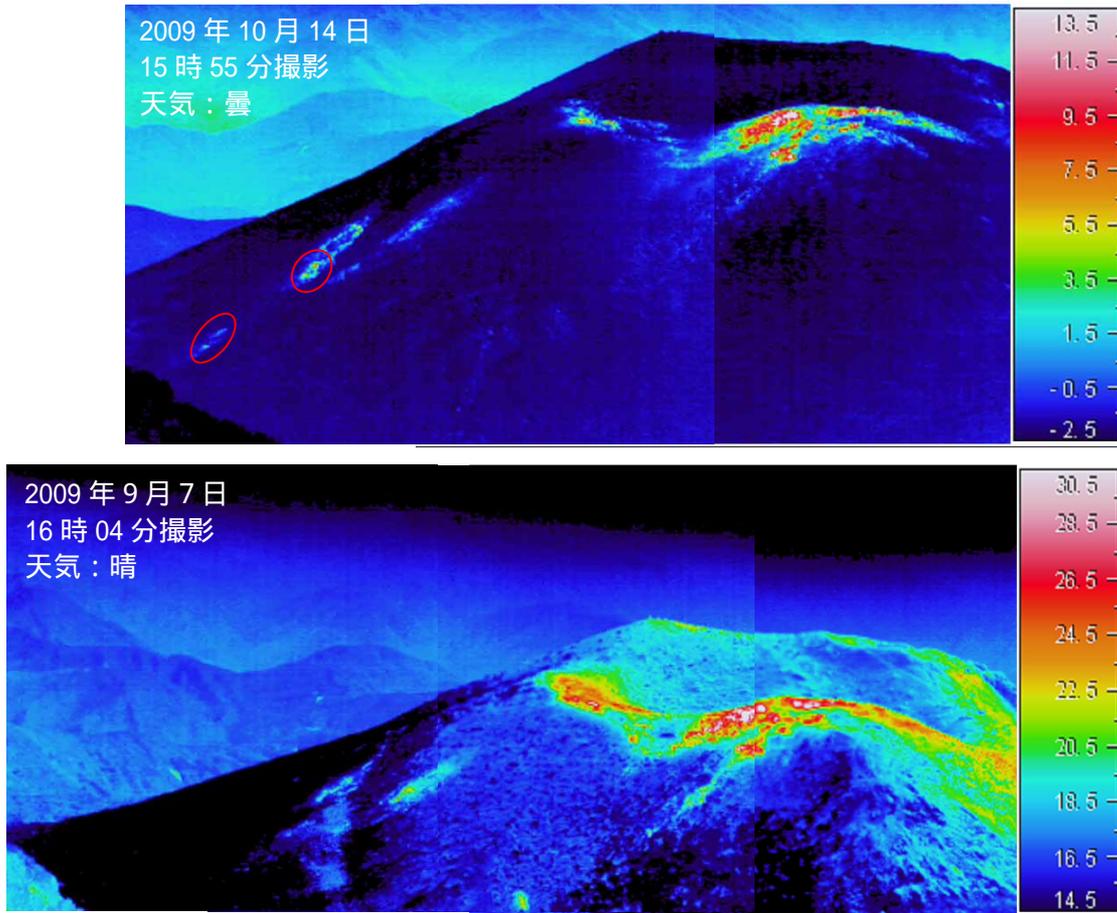


図4 秋田駒ヶ岳 女岳山頂北部と北東斜面の地表面温度分布¹⁾
(上段: 2009年10月22日、下段: 2009年9月7日)

- ・実線赤丸部分が今回の調査で拡大が確認された地熱域です。
- ・山頂北部の噴気地熱地帯では、地熱域の広がり等に特段の変化はみられません。

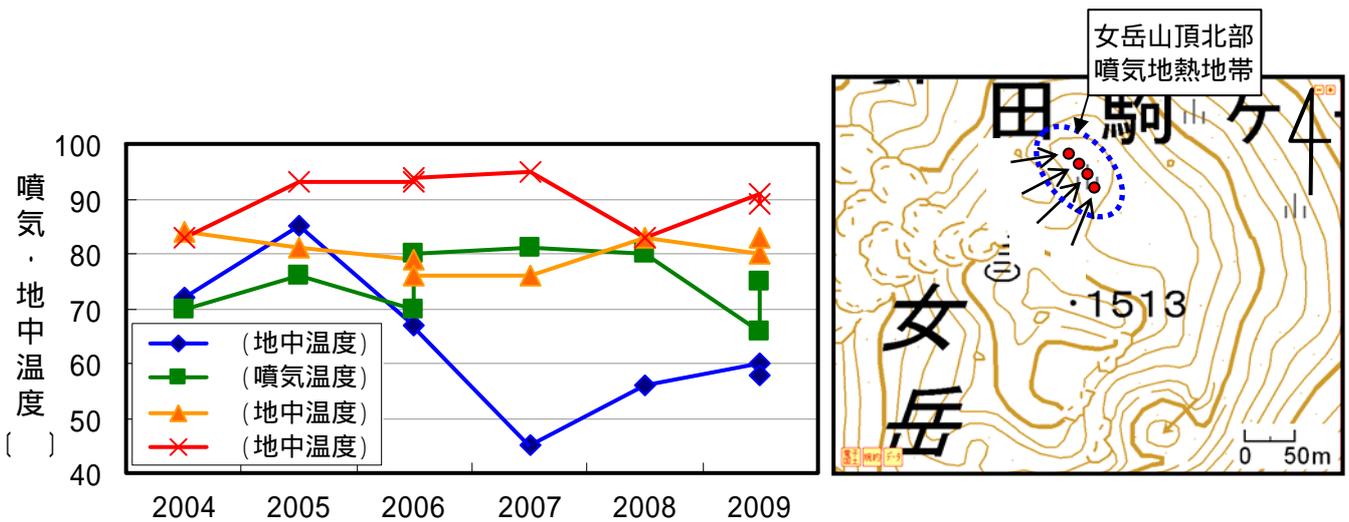


図5 秋田駒ヶ岳 女岳山頂北部の噴気温度及び地中温度²⁾(深さ10~30cm)(左)と測定地点(右)
右図の範囲は図2の点線で囲まれた範囲に対応します。左図からの番号は、右図の観測地点からそれぞれ対応します。

女岳山頂北部の噴気地熱地帯の北西側の観測地点から順に、1、2、3、4としています。

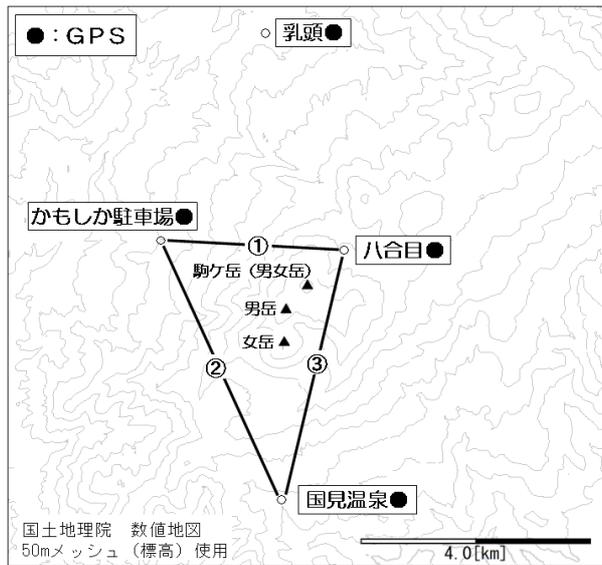
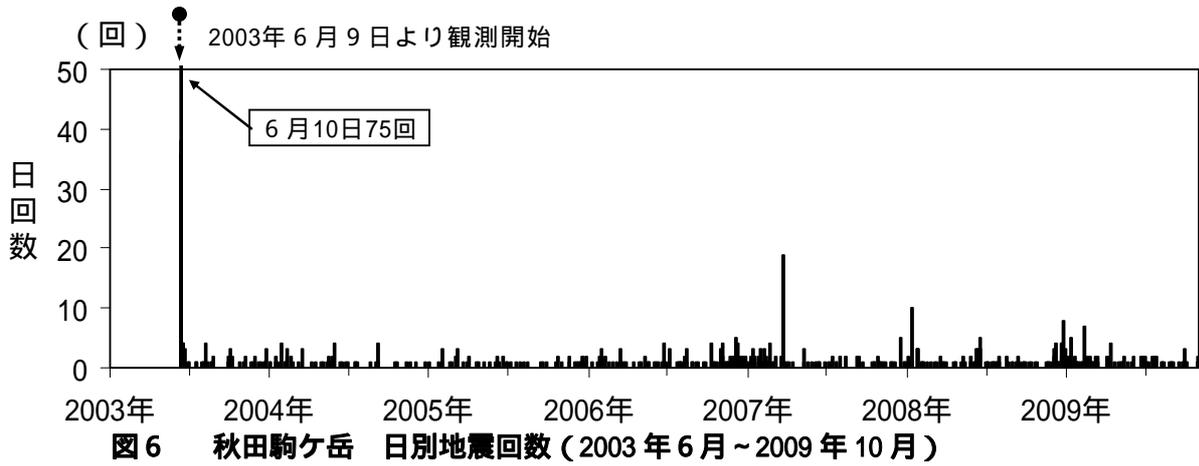


図7 秋田駒ヶ岳 GPS繰り返し観測点配置図
GPS 基線 ~ は図8の ~ に対応しています。
乳頭観測点は基準観測点として使用しています

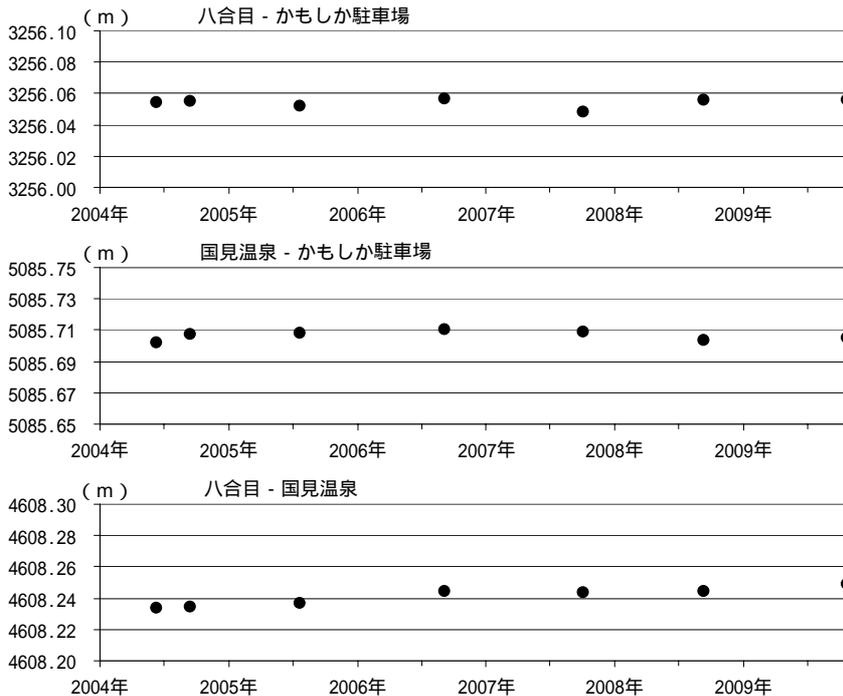


図8 秋田駒ヶ岳 GPS繰り返し観測基線長変化図（2004年6月～2009年10月）
~ は図7のGPS基線 ~ に対応しています。